

きずな(絆) No.32 発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

全国の仲間で被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

■ キューバ大使からメッセージ「困難な状況を乗り越えることを確信」



3月11日の大地震以来、日本が体験している壊滅的な悲劇に対し、私と駐日キューバ大使館全員からのもっとも深い哀悼の気持ちをここにお伝えしたいと思います。日本国民のストイックで規律正しい性格は、無数の人的損失と甚大な物理的破壊に国が苦しんでいるこの困難な状況を必ず乗り越えることを可能にするであろうと確信しています。

兄弟的挨拶を持って、2011年3月23日 東京 キューバ大使 ホセ・フェルナンデス・コシーオ

■ 「募金は医療に使います！学生有志が募金活動」大阪・泉州看護学校

3月30日と31日の2日間、午後5時～7時まで、学生有志延べ35名が南海高野線堺東駅前で震災募金をうったえました。

勤務帰りのサラリーマン、部活帰りの高校生や小学生からも協力がありました。「私は被災者です。大阪に避難してきました。募金活動ご苦労様、有り難う」の言葉もいただきました。2日間で集まった194,959円は、学生有志代表から学校へ渡され、学校から大阪民医連へ届けられます。(泉州看護専門学校 垣内健事務長より)



■ 「みやぎ県南医療生協で入浴などの支援」尼崎医療生協グループ



看護師長と介護福祉士2名は、みやぎ県南医療生協の専務の迎いで現地に向かいました。事業所周辺は被害を比較的免れた地域ですが、専務は、多賀城市内を車で走っていた時に大地震に遭遇し、大津波が来て車を乗り捨て、ガソリンスタンドの洗車機の上に飛び乗り何とか助かったといっています。3時間ほど水は引かず、途中、子ども2人が流されてきましたが、助かったそうです。県南医療生協は、坂総合病院から40キロほど南で、福島第1原発から60キロ北のところ。到着後は海沿いの壊滅状態の亘理町などを案内していただきました。想像を絶するすさまじい光景です。原発から40キロの山元町は、壊滅状態ですがTV報道もされず、支援も遅れています。震災以降から入浴されていない避難所の方をデイサービスで受け入れ入浴介助を行いました。今後は、避難所めぐり、物資の仕分け、安否確認の電話がけを取り組みます。(兵庫・尼崎医療生協「東日本大震災支援ニュース No.19」4/5より)

<おしらせ> ****

○法人・事業所・県連が発行された支援ニュースや新聞報道掲載記事などは、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。

○全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しよう。
